

来賓挨拶

沖 修司（林野庁 次長）

本日、森林総合研究所 REDD 研究開発センターの公開国際セミナー「REDD プラスの資金メカニズムとその活用」がこのように国内外から多くの皆さまのご参加の下で開催されることに、心よりお喜び申し上げます。世界各国からご参加される専門家の皆さまを歓迎申し上げるとともに、日本の皆さまには、日頃から森林林業行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、公表されたIPCC第5次報告書によると、森林減少や土地利用等に由来する温室効果ガスの排出は世界の排出量の4分の1を占めるとされ、この対策は気候変動緩和の観点から重要な課題となっている。気候変動枠組条約の締約国会議では、森林減少などの抑制を行った途上国に対して経済的なインセンティブを与えるREDDプラスが2005年から検討されてきた。そして、2013年にポーランド・ワルシャワで開催された第19回締約国会議で「REDDプラスのためのワルシャワ枠組み」と総称される七つの決議文書が合意され、REDDプラスの技術的議論が大きく前進した。

昨年12月にペルー・リマで開催されたCOP20においては、「ワルシャワ REDD+枠組み」に基づき、各国から提出される参照排出レベルなど、支払いを受けるのに必要な情報を公表するプラットフォームとして「リマ REDD+情報ハブ」が条約事務局のウェブサイトに開設されることとなった。

また、緑の気候基金²に関しては、緑の気候基金の理事会に対して「ワルシャワ REDD+枠組み」等の一連のREDDプラスに関する決議に留意することを要請する決定が採択された。同基金には、わが国が国会の承認を前提に拠出を表明した15億ドルを含め、昨年未までに総額で102億ドルの拠出表明がなされており、本年末のCOP21³において、最初のプロジェクトへの拠出を実施することが発表された。

本日のセミナーでは、国内外の専門家から REDD プラス実施のインセンティブとなる多国間・二国間を含むさまざまな資金メカニズムの仕組みや、効果的な制度設計、その活用等について、具体的な事例、国際的な議論、動向などを踏まえた発表がある。この機会にぜひ、ご参加の皆さまも知見や経験を共有していただき、さらに見識を深めていただく機会としていただければと思う。林野庁としても、資金を担当する関係省庁等と連携しつつ、今後とも REDD プラスの実現に向け貢献してまいりたい。

最後に、本日のセミナーによって、ご参加の皆さま一人一人が、REDD プラスおよび世界の森林保全や持続可能な森林経営の推進に向け、実り多き成果が得られることをご祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

¹ http://unfccc.int/land_use_and_climate_change/redd/items/8180.php

² <http://news.gcfund.org/>

³ 第21回気候変動枠組条約締約国会議：<http://www.cop21paris.org/>

DAY1
Opening Session